

2 各種委員会報告

1. 図書委員会

5月27日、7月1日、10月14日、12月2日、3月12日の5回開催した。

2005年度に特に時間を割いた課題は、新和泉図書館建設についてである。関係委員会等の報告を逐次行い、毎回、建設計画について協議した。また、教員による学習用図書の選書、図書館図書費と逐次刊行物費の問題、業務委託費の削減とサービスのあり方などが、大きなテーマとなった。

第1回：2005年度各種委員会、新泉図書館建設計画検討の体制、特別資料、図書委員会議事録のMICSでの公開。

第2回：日本近代文学文庫選書委員会の設置と委員の選出、新和泉図書館建設連絡協議会の設置と図書館側委員の選出、2006年度教育・研究に関する計画書。

第3回：法科大学院研究用図書費の補正、新規データベース契約、新規雑誌契約と既存購読雑誌のキャンセル、新和泉図書館建設に関する要望（案）、新和泉図書館建設促進委員会の解散。なお、法科大学院の図書費補正は、積算の基礎数値に誤りがあり修正したものである。

第4回：ケベック文庫設置に関わる協定の締結、明治大学附属中野学園生徒・教職員の図書館利用、2006年度図書館予算要求の基本方針。

第5回：2006年度図書館図書費配分、同各種文庫予算配分、図書館特別資料・研究用基礎資料・新規外国雑誌の募集、2006年度研究用図書の申込締切日、ケベック文庫選定委員会の設置、利用規程の改訂（今後の予定）。図書館図書費の5%削減と洋雑誌の値上がりへの対応として、逐次刊行物の他大学と共同購入や電子ジャーナルの切り換えを進めることとした。また、前年度に大幅削減した地方史誌、江戸文藝文庫、明大文庫、アフリカ文庫などの個性形成図書費には一定の配慮をすることにした。利用規程の改訂は、貸出冊数の増加・延長に重点を置いて検討することにした。この他に、教員による学習用図書選書委員会を活性化させるため、選書依頼の方法等について改善を図ることとした。

2. サービス推進委員会

2005年度は特段のテーマがなかったため開催を見送った。

3. 収書委員会

7月26日と3月8日の2回開催した。

第1回は、法科大学院研究用図書費の補正、逐次刊行物費、新規外部データベース契約のあり方、蘆田文庫選定委員会内規・選定規準について審議した。外部データベースは、予算逼迫のため、新規の契約要望に応える余地が無くなってきていることか

ら、今後予算の抜本的な見直しと既契約データベースのキャンセルも含めた選定体制の再構築を検討していくことにした。

第2回は、2006年度図書館図書費配分、同各種文庫予算配分、新規外部データベースの契約について審議した。図書館図書費の5%の削減を受け、逐次刊行物の値上りへの中期的な対応策の立案を図書委員会に求めることを前提に、研究用図書費については学部ごとに均等の削減とする配分案を承認した。

なお、新規外部データベースは、「International Financial Statistics Browse」、「Springer Online Journal Archive」、「Oxford University Press Online Archive Collection」、「JSTOR」の4点を契約することとした。

4. 新聞・雑誌委員会

7月22日、9月30日、12月2日、3月8日の4回開催した。

図書館図書費に占める逐次刊行物費の著しい増大は、図書館の収書のあり方に大きな影響を及ぼす問題となっている。その原因の第一は、外国雑誌の高騰にある。そこで、通常の新規外国雑誌の選定、国内雑誌やバックナンバー選定方法の変更、前年度の生田図書館に引き続き中央図書館及び和泉図書館における外国雑誌のキャンセルの決定のほか、国内雑誌見直しの検討、電子ジャーナル化への切り替えの是非などについて精力的に検討した。

第1回は、2006年新規外国雑誌の選定を行った。170万円の予算に対し、駿河台地区40万円、和泉地区40万円、生田地区120万円分の応募があり、それぞれ、4誌、4誌、7誌の計15誌を選定し、図書委員会に諮ることとした。

第2回は、今後のキャンセルアンケート、国内雑誌の見直し、バックナンバー、国内雑誌新聞の選定方法および原則について検討した。2006年のキャンセルは、アンケートに基づいて、58タイトル約175万円とすることにした。アンケートは2年連続して実施したが、次年度も予算的に増額措置が見込まれないため、今後も継続して見直しする必要があることを確認した。

第3回は、外国雑誌・国内雑誌・バックナンバーの申込み・選定方法の変更、継続雑誌見直しアンケートについて検討した。

第4回は、外国雑誌・国内雑誌・バックナンバーの申込み・選定方法の変更、雑誌の購入及び逐次刊行物費のあり方について検討した。新規国内雑誌についても、一定の予算枠を設け、当委員会で選定することにした。また、今後のあり方について、新任教員への対応や研究・教育の活性化のために毎年、新規に購入していくことは必要であり、予算確保のために、下記の方向性を推進していくことにした。

ア) グループタイトルのキャンセル

イ) タイトルの入替。生田地区から実施する

ウ) 冊子体から電子ジャーナルへの切り替えのための調査の実施

- エ) 雑誌費の図書館図書費からの切り離し(別途、大学に予算措置を求める)
- オ) 他大学との分担収集
- カ) 私立大学コンソーシアム(PULC)契約の促進
- キ) 図書館図書費全体の組み方の抜本的見直し

5. 特別資料選定委員会

5月23日に開催し、応募資料を選定した。選定に先立ちガイドラインの確認を行い、特別資料の目的に鑑み、体系的、網羅性、一貫性を重視して慎重に判断することを申し合わせた。応募資料全4点、総額31,967,901円のうちから、2点、22,050,000円を選定し、図書委員会に推薦することにした。選定資料は、別項7「各種データ表」の図書館特別資料購入一覧のとおりである。

なお、従来は、春秋の年間2回公募しているが、この2点の購入で、2005年度の予算にほぼ達したため、第2回募集は行わないことにした。

6. アフリカ文庫選定委員会

5月19日と11月7日の2回開催した。

第1回は、冊子体目録の送付先、イベント、2005年度予算執行計画について協議し、前期の選定を行った。予算については、配付額が前年度から半減されたことを受けて、予定していた西江雅之氏蔵書コレクションの購入は、同コレクションのうち稀覯書分のみを同文庫費から支出することにした。

第2回は、2006年度委員長の交代(福田邦夫委員長在外研究のため)、2006年度選定委員、2006年度予算要求について協議し、後期の選定をおこなった。同文庫予算については、文庫の継続性からして政策経費として増額を求めることにした。

なお、イベントは別項4「主要行事」のとおり2回開催した。

7. 江戸文藝文庫選定委員会(新設)

故水野稔文学部教授の旧蔵書を核に、従来から図書館が所蔵する江戸の戯作類を、図書館の特色あるコレクションとして発展、充実させていくこととし、5月の図書委員会において、内村和至文学部教授を委員長とする教員2名、図書館職員2名からなる選定委員会を、収書委員会のもとに設置することを決定した。

1月23日に開催し、委員会の運営内規、今後の運営、選書ガイドラインについて協議し、2005年度の選定をおこなった。

なお、日常の選定についてはオンライン会議の形で随時行っていくことにした。

8. 蘆田文庫選定委員会(新設)

蘆田文庫については既に多くの実績を残しているが、継続性をもってさらなる充実

を図ることとし、5月の図書委員会において、岩井憲幸文学部教授を委員長に、旧蘆田文庫編纂委員会メンバーを中心とする教員3名、図書館職員2名からなる選定委員会を、収書委員会のもとに設置することを決定した。

7月2日に第1回の委員会を開催し、選定基準、委員会の運営内規について協議し、2005年度の選定を行った。

9. 日本近代文学文庫選書委員会(新設)

同文庫は和泉図書館の特別コレクションであり、長年にわたって構築してきたものである。図書館蔵書の中での位置づけを明確にして、さらなる発展を期して、7月の図書委員会で、商学部の西山春文教授を委員長とする教員3名、図書館職員2名からなる選書委員会を、収書委員会のもとに設置することを決定した。

委員会は7月20日、10月26日の2回開催した。

第1回は、2005年度の選書方針、図書の展示・研究成果等の情報発信について協議し、選定した。選書方針には、「杉並区に縁故のある作家の作品」を付け加えること、収集範囲に、自筆原稿、書簡、色紙、短冊等を加えることとした。

第2回は、2006年度の選書方針、2006年度の選書・購入の手続きについて協議し、選定した。2006年度の選書方針は下記のとおりである。

1. 次の優先順位で選書・決定する。

①文学史上の重要図書であること

②希少図書であること

③明大関係者の作品であること

④和田堀廟所に墓所のある文学者（樋口一葉、九条武子、中村汀女など）の作品

2. 自筆ものは明大関係者のものを優先する。

3. 所蔵の図書が不完全（例：破損、奥付が欠、等）で、廉価の場合、重複購入を検討する。

10. 図書館基礎資料選定委員会

10月25日、2月2日、2月24日、3月16日の4回開催し、49点の選定を行った。

選定内容は、別項「2005年度図書館基礎資料購入一覧」のとおりである。

なお、次年度からは、ほぼ四半期ごとに開催し、計画的に選定を行うことにした。

11. 図書館自己点検・評価委員会

「図書館自己点検・評価報告書」の作成について、各委員及び事務局において進めてきたが、3月30日の委員会において最終案を取りまとめ、大学に提出した。

12. 新和泉図書館建設推進委員会(廃止)

2004年に、和泉委員会の元に新和泉図書館建設検討委員会が設置されたことに対応し、図書館側の委員会として、図書委員会の元に設置されたものであるが、下掲の連絡協議会が設置されたことに伴って、2005年10月に解散した。

13. 新和泉図書館建設連絡協議会(新設)

上掲のとおり、新和泉図書館建設を推進するため、和泉委員会と図書館それぞれに委員会を設置して検討して来たが、一元的に対応することとし、図書委員会の審議を経て、7月19日に、和泉委員会と合同で連絡協議会(議長:原図書館長)を設置した。図書館側からは、館長、副館長など教員5名、事務部長など図書館職員6名を選出した。

協議会は、7月9日、同25日、9月27日、11月8日、2月28日の5回開催した。2004年3月に図書館が作成した「新和泉図書館建設についての提言」を再検討して、新たに「新和泉図書館の建設に関する要望」を作成し、和泉キャンパス・グランドデザイン・新和泉図書館建設検討委員会合同委員会、新和泉図書館建設促進委員会、図書委員会、和泉委員会の議を経て、10月31日に学長、11月8日に総務担当常勤理事に提出した。

14. 新和泉図書館建設ワーキンググループ(新設)

「新和泉図書館建設についての提言」を具体化するために、3月、館長の諮問を受け、広沢副館長のもと、図書館職員5名によるワーキンググループを立ち上げた。2005年度には、3月9日、同30日の2回開催し、基本イメージ等について検討した。

なお、ワーキンググループは、2006年5月16日に、最終答申「新和泉図書館に係る報告書(回答)」を館長に提出して解散した。

15. 図書館ホームページ委員会

3月10日に開催し、下部委員会の図書館ホームページ編集委員会で作成した、ホームページの英語版について検討し、2006年度からのリリースを決定した。

16. 図書館紀要編集委員会

7月22日に開催し、「図書の譜」第10号の企画を決定した。
また、刊行までの間、原稿の査読と編集に当たった。